

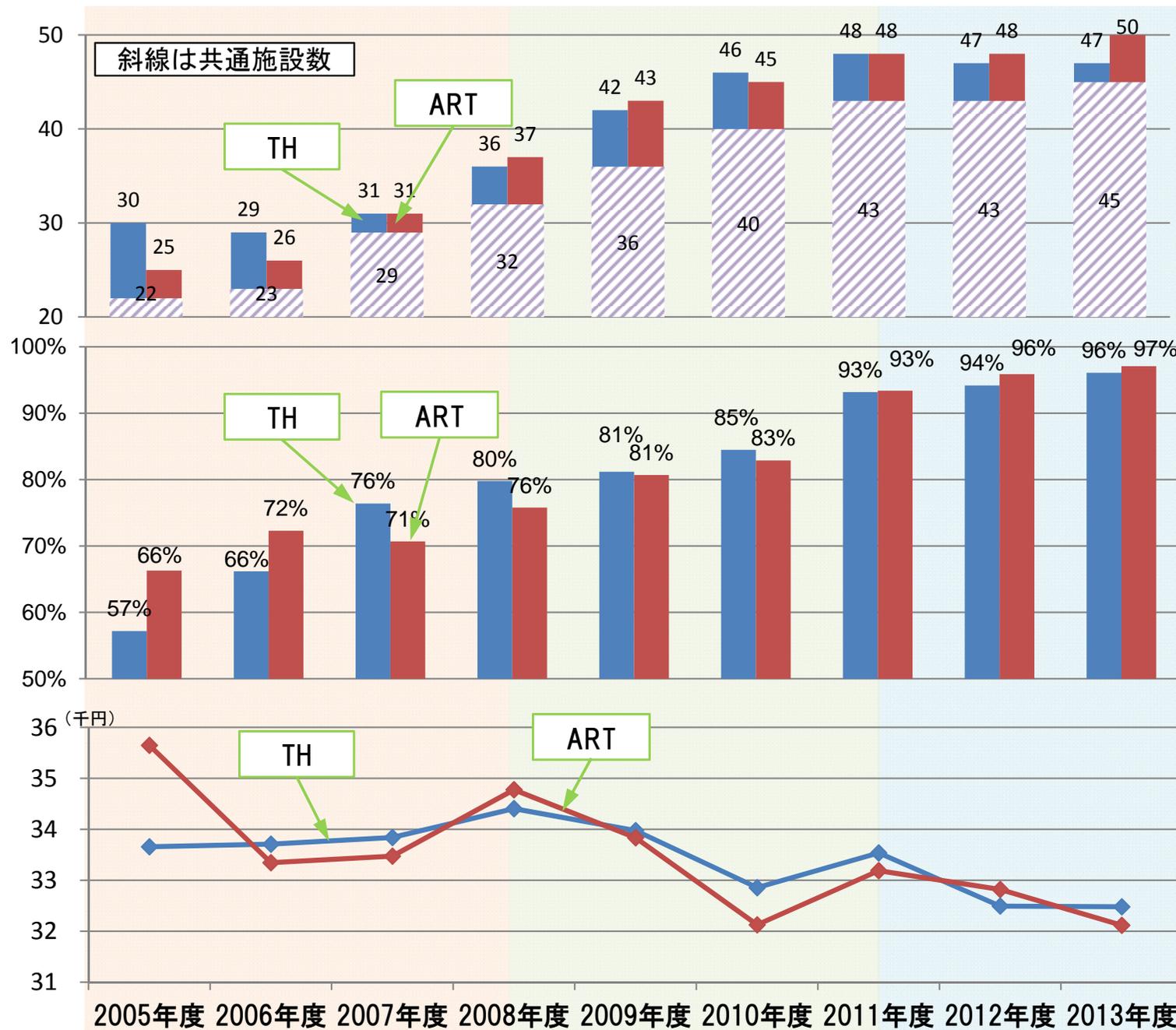
自動車製造業者等における安定化・効率化の取組

ASR再資源化に係る2チームの競争

【再資源化施設数】

【ASRリサイクル率】

【トン当たりASR処理費】



【2005年～2007年頃】
リサイクル施設を開拓し、
埋立・焼却を削減
⇒リサイクル率向上、処理
費用増加

【2008年頃～】
更にリサイクル施設を開拓
し、コスト低減を図る
⇒リサイクル率向上とコスト
低減の両立

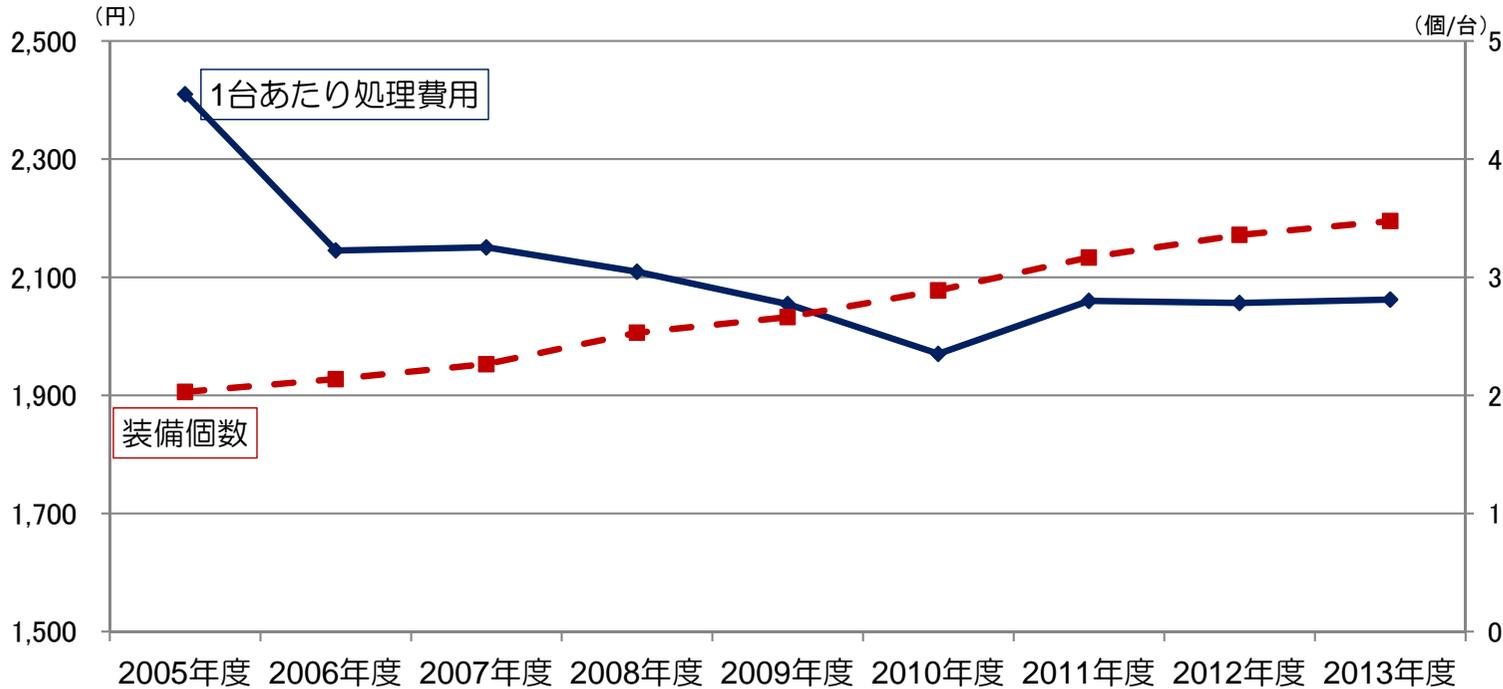
近年では、リサイクル率が
高止まりしていることもあ
り、両チームが契約する再
資源化施設のほとんどが重
複する状況となっている。

今後もしサイクルの質の向
上を促す必要がある。
一方で、更なる効率化の観
点から、両チームの事務の
統合についても中長期的に
検討が必要。

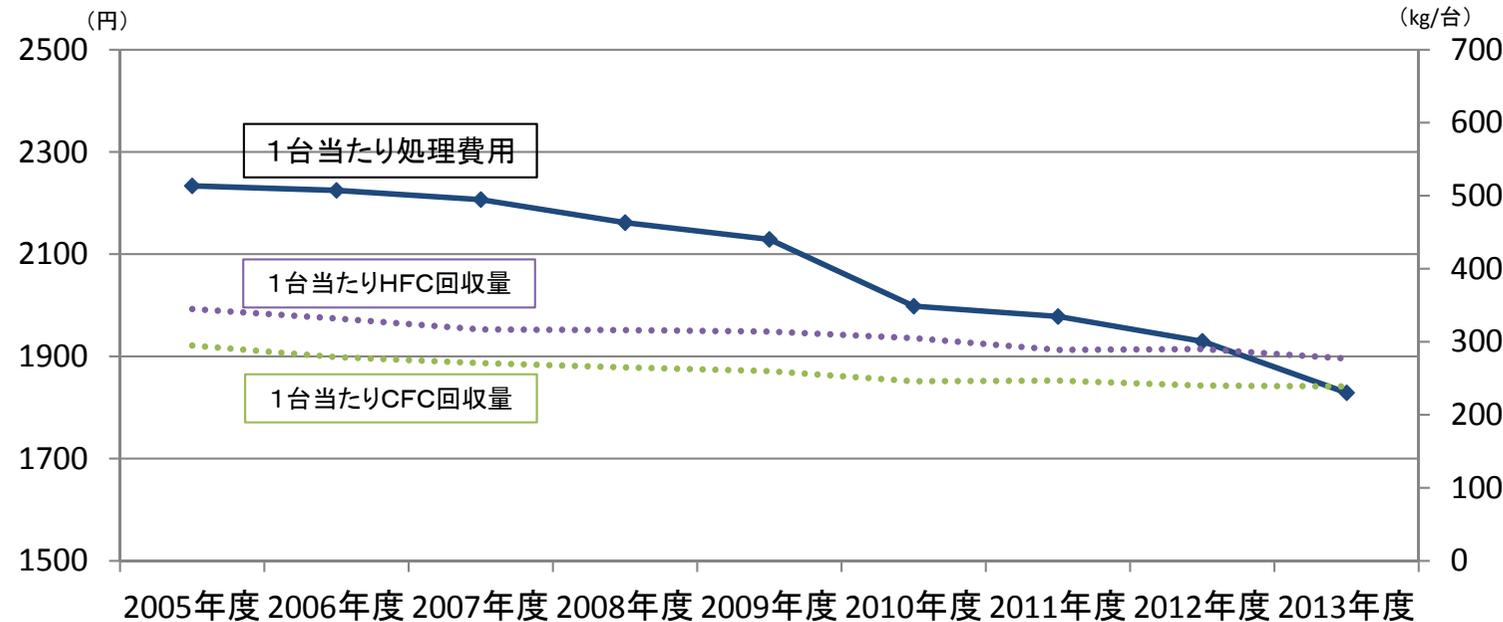
自動車製造業者等における安定化・効率化の取組

エアバッグ類・フロン類の再資源化等(自動車再資源化協力機構における取組)

【台当たりエアバッグ類処理費用】



【台当たりフロン類処理費用】



エアバッグ類については、装備個数が増加しているが、指定引取場所等の競争入札、運搬の効率化、自再協手数料等の削減等により、解体事業者への支払い増をカバーしている。

フロン類については、破壊施設等の競争入札、運搬の効率化、自再協手数料等の削減等により、費用の低減が行われている。

エアバッグ類・フロン類の再資源化等は、自動車製造業者等の委託により、自動車再資源化協力機構において業務が実施されているが、効率化のみならず適正処理推進の面でも成果がみられる。